

令和8年度新任農業委員・農地利用最適化推進委員ブロック別研修会を開催



挨拶をする柳田専務理事兼事務局長

本年度は、県内 23 農業委員会で改選が行われ、新たな農業委員と農地利用最適化推進委員が **190** 名誕生しました。

新任委員を対象に農業委員会の業務等を学んでいただくため『令和8年度新任農業委員・農地利用最適化推進委員ブロック別研修会』を県南、県央、県北の3ブロック（8月20日、21日、24日）に分けて開催しました。

研修会では、農業委員会の概要・業務や農地法、農地関連法制度、担い手関連の取組、農地中間管理事業等を説明。その後、先輩委員からのメッセージとして、県南ブロック：えびの市農業委員会の稲田優前会長、県央

ブロック：宮崎市農業委員会の川越正彦会長、県北ブロック：椎葉村農業委員会の清田泉会長に実体験に基づいた活動の話や応援の言葉をいただきました。

参加者は熱心に研修を受け、積極的に質問されるなど、意識の高さが感じられ、これからの活動が期待されました。





えびの市農業委員会 稲田前会長

女性委員の登用に力をいれ女性委員数が県内一となったえびの市“意見の幅が広がり、地域の人とも相談しやすい”との声があり、委員全員の連携が大切



宮崎市農業委員会 川越会長

“農家との会話を通して地域農業の課題を探ること”が大切



椎葉村農業委員会 清田会長

笑い話も交えながら“地域の貴重な農地を守っていくために共に頑張りましょう！”とエール

（新任委員の主な感想）

- 地域のために、農家のために取り組んでいきたい
- 今後、地区内の遊休農地・荒廃農地の再生利用出来るように就農者と現農家の方と考えていきたい。
- 農家の悩み事を聞き、自分で解決できないことは、関係機関へ橋渡ししていける様なになれば良いかなとおもった。
- 土地の見回り、地主さんの困りごとを聞き取り等、研修内容を把握した上で行いたい。
- 地元の方に知ってもらってから一つ一つ積み上げて信頼される推進委員になります。
- 地域農業の世話役として若い人からベテランの人たちと話し女性ならではの発想で将来の農業が少しでもスムーズに出来ればと思う。委員の仕事は、農地転用を適正に判断するにも後継者を育てる為にも大切なことだと思う。
- 地域の営農者や後継者、女性の方々との会話を大事にして今後の委員活動の中で生かせる様にしていきたい。この機会にあまり行かない様な地域もパトロールに行ってみる。等